



京大探偵団

# ～図書館に潜むクナ～

冬季休業が迫り学生達が課題を終えて徐々にキャンパスから姿を消し始めるころ、探偵団に一本の依頼の電話がかかってきた。「レポートを作ってください!!」「…はあ？」

その後先輩からの「何事も経験だ云々…」というなかば強引な説得もあり、探偵は他人のレポートを作ることになってしまった。とりあえずレポートの分野について何も知らなかつたので、自分も課題に追われる身であるにもかかわらず昼夜みに附属図書館へと足を運んでみた。ところがOPAC (\*1)で検索すると求める本は○×学部図書室にしか置いてないのではないか。しかしそこはプロの仕事をする探偵、自身のプライドにかけなんとしても理想のレポートを書くため○×学部図書室に行ってみることにした。

しかし数分後、

## 「本はどこだっ!! って言うかここはどこだ!?」

なんと探偵は迷ってしまったようだ。実は○×学部図書室には分室がいくつかあり、求める本は中央図書室にはなかったのである。

そうこうしてなんとか分室まで辿り着いたわけなのだが、何だか図書室の様子がおかしい。「あれっ、あ、開かない!?」。なんとこの分室、**昼に休憩を取っていた**のだ。この後も授業が入っている探偵は、結局しぶしぶ引き下がるしかないのであった。



### \*3 学外の図書館の利用に必要なもの (図書館によっては下に限らない)

#### □ 国立大学・近畿の公立大学の附属図書館

教員・院生以上は学生証・職員証  
学部生は附属図書館発行の紹介状

#### □ 私立大学の附属図書館

附属図書館発行の紹介状

#### □ 京都府立図書館

住所・氏名の確認できるもの  
(運転免許証・健康保険証・学生証など)  
※府立図書館の貸出は京都府及び隣接府県  
在住または京都府内に通勤・通学の方に限る

放課後、やっと本を見つけた探偵は借りようと司書のところへ持っていた。ところが、「これ貸し出しあるいします」「利用書見せて下さい」「えっ…」なんと○×学部図書室では○×学部生以外の利用者が貸出しを行なうときには、**相互利用書 (\*2)**が必要となるのであった。  
「どこでもらえば…?」

## 「自分の学部図書室でもらって来て下さい」

数十分後、利用書をもらい再び図書室へ。しかしその日一日ずっとついていた探偵。そのまま無事に終わるはずがなかったのである。なんと目的の本が目の前で他の学生のカバンにしまわっていくのだ。「そっ、そなあ～」

結局、探偵は本を求めて**他大学から府立図書館 (\*3)**まで渡り歩き、なんか期限までにレポートを仕上げたのであった。「燃え尽きたぜ…まっしろに、な」

数日後、探偵団事務所にて

「先輩、なんとかレポートの依頼を終了しました」

「そうか、よくやった」

「ところで先輩は余裕かましてますけど、課題は大丈夫なんですか」

「おう、後はこのレポートを出すだけだ」

ところが探偵、なぜかそのレポートに見覚えが…

(The Inward Rattan)



※注 現在探偵団におけるレポート代行サービスは休止いたしております

はみだし  
すてーじ

NHKのロシア語会話には、毎回ウォッカの話題が出てくる  
⇒ロシアではSARS予防として噂になる程好かれるウォッカですが、離婚の原因の第一位が酒だそうですね。（お酒は二十歳から；編）

(人環・院 デリでま)